

令和元年 飯田市教育委員会 6月定例会会議録

令和元年 6月12日(水) 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	小澤 由美子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	高坂 徹
生涯学習・スポーツ課長	北澤 俊規
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館長	棚田 昭彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	池戸 通徳
歴史研究所副所長	小椋 貴彦
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和元年飯田市教育委員会6月定例会を開会したいと思います。

本日もよろしく申し上げます。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2 会期の決定、6月の定例会会期を本日1日とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3 会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員は、伊藤 昇教育委員にお願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） はい。

○教育長（代田昭久） よろしく願いいたします

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4 会議録の承認、5月の定例会の会議録の承認のほうよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしく申し上げます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5 教育長報告事項。

それでは、私のほうからA4の2枚で資料をお渡ししておりますので、それに沿ってお話をしたいというふうに思います。今月は、3点お話をさせていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

まず1点目ですが、全国都市教育長協議会定期総会というのが富山で行われました。5月の23・24に行ってきたわけなんですけれども、皆さん、富山って行ったことあります。

行ったことなかったのは私だけだったんですね。初めて行って、あらららら、「これは飯田市のライバルだなあ」というふうに思うくらい、飛騨高山の景色や富山はきれいだなあというふうに思いました。

また、「越中おわら風の盆」って見たことありました。それもみんな見たことあったんですね。私初めて見て、特に印象に残ったのは胡弓を使うんですね。いわゆる中国というか、位の高い音楽が受け継がれてきたというようなことで、非常に信州にはない伝統的なものが息づいていて、日本の中にも知らない文化ってまだまだあるんだなあというふうに、本当に内容とは別に富山の地に行っているいろいろ勉強させていただいたなあというふうに思います。

内容としてはですね、2日目の分科会で、やはり全国の事例発表だけあってなかなか進んだ行政発表だなあ、教育行政の発表だなあというふうに思いました。

まず1つは、埼玉県の入間市の発表があって、入間市ではですね、いわゆる福祉事業と教育事業を一緒にした子どもたちの自立支援を目指す「子ども未来事業室」というものをつくって、生まれてから18年間の連続した支援を行っている。

その支援というのは子どもの支援、1つは子どもの支援、2番目は、教師・保育士の支援、先生たちの支援ですね、3番目は親の支援ということで、3つの支援というのを明確にして、それを18年間連続させていくんだということにして、具体的には子どもの支援で幼児からの通級指導教室や親には「育ちの支援シート」みたいなものを一斉に作って渡しているという事柄の報告がありました。

実際に課題としては、18年、高校卒業までのところは支援するんだけど、そこまでの就労までがなかなか、つながらないという課題の提示はありましたけれども、それでも飯田市が今小中連携一貫から幼保小の連携、さらには中高の連携というのを考えている中で、一歩進んだ取り組みを聞かせていただいたなあというふうに思います。

2番目は、奈良県生駒市ですね、いわゆる英語教育、グローバル社会に対応するコミュニケーション能力の育成ということで、小学校1年からの英語活動を既に始めているということで、12年間の一貫カリキュラムによる英語実践の様子の発表がありました。

ご存じのとおり、小学校の5・6年生が教科化、3・4年生がいわゆる外国語活動ということで、1年生・2年生というのは系統的には今教育指導要領に定められているわけではないんですが、それを生駒市教育カリキュラムということで独自に作成してやり始めているということです。

ただ、実際に学力、英語のテストが今年度から始まって、かなり高いだろうというふうに

は言われているし、逆に英語というのは、これ奈良県生駒市って大阪に隣接した都市なので、大阪からのベッドタウン、富裕都市なので、英語をやって学力が高いというのは移住政策に直結しているのです。随分ここの施策による移住者がすごく増えているというふうな面もありました。

ただ、小学校の教員はどこも変わらず、英語の研修というか免許を持っているわけではないので、先生たちの英語の指導力の向上や、また、逆に小学校からやっているのです。英語嫌いをつくらぬような「そんなことにケアしている」という話をしていました。

3番目としては、これ先ほど美術博物館の話でもありましたけれども、高知県の高知市では、昨年、開館したんですけれども、図書館と科学館を複合した「オーテピア高知図書館」というものの発表がありました。日本初の県と市が連携した社会教育科の施設であると。

さらに図書館の中を、これは高知が初めてではなく、図書館の中でいろんな取り組みの中の1つであるところですが、「会話ができる図書館」ということで、話したりとか雑談ができたり、また、軽食ができるようなスペースを設けることによって中高生の利用が大幅に増えたという話。

さらには、科学館と図書館が一緒ですので、各学校での遠足で来て理科学習をするという利用を受け入れることによって、年間75万人というような報告がありました。

図書館に至ってはということですが、小学校と中学校の連携はこれからの課題だということで、市民の受け入れ施設に関しては新しい取り組みとしての報告を聞きました。

3つの事例を聞いて感想ですけれども、それぞれの自治体が、それぞれの地域の特色やそれぞれの地域の持つ強み、こういったものを生かして独自の取り組みをやっぴり一生懸命やっているなあというのは本当に感じました。

飯田市の中で、また、長野県の中での事例研究ではなく、やはり視野を広げて、我々の教育委員会、また、教育委員会事務局も含めて、どんどん外に学ぶ必要があるなあというふうな実感をした研修でした。

2番目は、社会文教委員会、議会は2年ごとに委員会のメンバーが替わります。今年度、4年の任期が3年目ということで、社会文教委員会のメンバーが入れ替わりました。そういった新しい委員の皆さんと管内視察を5月の21日に行われ、7名の議員の皆さん行っただけですが、社会文教委員会は、教育委員会とか病院とか福祉、保健、こういった分野になるんですが、教育関係の4つの場所に行きました。

千代小学校のICTの授業、竜峡共同調理場、空調設備は松尾小学校、そして、上郷の公民館という4つを行っただけですけれども、特に感じたのはですね、千代小学校のICTの授

業を見ていただきましたけれども、確かに本当に良い授業をしていたんですが、「初めてICTの授業を見た」という議員さんがおってですね、「本当にこれはうまくやっている」と、「良い授業だ」というのを本当に認めていただくというのは表現悪いですね。感じていただいて、「あ、これがICTの授業で、子どもたちが本当に生き生きとして勉強しとるなあ」ということを口々に語っていただきました。

さらには、議員さん鋭いなあというふうに思ったのは、「ICTが導入されると先生方の教え方というのは変わってきますよね、さらには先生の力量によって授業に差が出てきますよね」、こんなところまで会話としてあって、そんなところを突かれている議員もいらっしやあって、その1行さすがだなあというふうに思いました。

感想としてはですね、議員の皆さんがICTの教育の予算等を議論していただくわけですが、やはりICT教育って、いまだに0か1かのデジタル教育、「無味乾燥な人間をつくるんじゃないか」みたいな前近代的な評価がされることもあるわけですが、やっぱり一度は見ないとその評価もできないわけで、そういった見るとか学ぶ機会をこちら側もつくっていかないと、それは見ていない議員のせいではなくて、見る機会を少なくしている我々の責任もあるんだろうなあというふうにつくづく思いました。

ICTの推進をするためには、そういった見る機会を広げていくことも大事だなあというふうに痛感した視察でもありました。

ちなみに、武雄市では、武雄でやっている事例なんですけれども、「オープンデイ」というふうに設けて、「年間必ずどこか2つはICTの公開授業をやります」ということをホームページにも公開して、視察が多かったということもあったんですけども、年に2回、公開授業を義務付けて、そこには市民や視察が来るというのをオープンにしていたので、そんな決めて取り組みも視野に入れていってもいいんじゃないかなというふうに思っています。

3つ目は、「部活動転換期を迎え」ということで、今の現状をお伝えしたいなというふうに思います。

まず、部活動の話題としては、先週末というか6月の8日・9日に、飯田市の下伊那の大会が行われて、「部活動で大きな大事故がなく終えることができた」という報告はいただいています。

そんな盛り上がりを見せている部活動ではありますが、来年の2020年の8月を期限に飯田市の新しい部活の方針を実施していきたいということで、今年度、各学校やスポーツ団体等に説明を行っているわけでもあります。

4月の冒頭2日・3日には、私のほうから直接各中学校に回って部活動の方針と意見交換

をしてきました。さらには、各中学校で保護者会や部活動、「運営」がちょっと違いますが失礼をしました。運営委員会のほうに行って事務局のほうで説明を伺っているところであり
ます。

また、スポーツ団体ということで、飯田市体協の理事会や総会、スポーツ少年団の総会、さらにはスポーツ審議会などでも部活動の方針の案の説明と意見交換を行ってというのが
今現状です。

次のページ、南信州新聞さんのほうから6月の8日、取材を受けて記事になったので添え
させていただきましたけれども、肌感覚で、今の市民や学校の反応としては、「まだまだそ
んな仕組みができないんじゃないの」とか、「本当にやるの」とか、そういった雰囲気があ
って、なかなか本当に新しい方針に行けるのかどうか、あと1年と4ヵ月でいけるのかどう
かというのは非常に難しい、遠い道のりであるような感覚を受けるわけですがけれども、ただ、
地域地域によってはですね、「いろんなことをやりたい」という声も出始めています。

競技によっては、「飯田市連携してやりたい」とか、「地区ごとでやりたい」というような
声が出始めていますので、私自身は、この「部活動の転換期を迎え」と書きましたけれども、
単に部活動の時間のあり方の問題ではなくて、これからの学校のあり方、先生の働き方、さ
らには飯田市のスポーツの文化のあり方まで変えていく大きなきっかけになるんじゃない
かなというふうに思っています。

これは教育委員会が引っ張るだけではなくて、いろんな市民の方、団体の方と会話をしな
がら新しいものを生み出すチャンスだし、実際にできるんじゃないかというふうに思ってい
ますので、そんな意気込みを持って進めておりますので、ぜひ教育委員の皆さんにもまたい
ろんなご意見いただければなというふうに思います。

その中で、チラシを2枚お配りしましたけれども、今週の土日に、ここの部活動とも関係
する体育の体力の向上に向けた研修が行われます。6月15日、今週の土曜日ですがけれども、
川路小学校でコオディネーショントレーニングの先生方に向けた研修会があります。

コオディネーショントレーニングって、今、簡単に説明するのは難しいわけですがけれども、
子どもたちの「ゴールデンエイジ」と言われている運動神経が発達する期間に体幹部を鍛え
ながら運動神経を鍛えていこうと、こんなざっくり言えばトレーニングですがけれども、その
第一人者である荒木先生が来られて、実際に川路小学校で研修を行うというものです。実際
に川路小学校の体力って非常に高くですね、こういったものがさらに伸びていくきっかけ
になればいいかなあというふうに思います。

翌日、2日間いただけたということなので、日曜日は午前中「エス・バード」のほう

で、今度は「中高生のスポーツのあり方」というテーマで講演とディスカッションをしようということを計画しています。

特に荒木先生が感じておられる中学校の部活動や、また、スポーツがどういうふうな形でスポーツ理論にも沿ってあるべきか、こんな話を皆さんと共有できればなというふうに思っています。

こういった形が体育協会や「ICOT」という、このコオディネーショントレーニングを進めている飯田の団体ですけれども、こういうところから湧き起こっていることから、各団体でこういう知恵を絞った動きが出ていることはうれしいなあというふうに思っています。

以上、3点ですが、何かご質問ご意見等あればよろしくお願いします。

いかがでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） はい、感想です。ICTを活用した授業の視察をされたということのお話を伺いました。武雄市で「オープンデイ」というのを設けていて、地域の人たちにご覧になるといったお話をいただきましたけれども、良いことだなというのが率直な感想です。

やはり見てもらうということで、地域の理解を得るということがやはり大事なかなというICTを活用した授業で思うことと、あと、そういうのに地域から注目されるということでの先生方の授業の力の向上というものもあると思いますし、そういうものを持って、やはり結局、子どもの教育の向上になるんだなと思うと、やはりそういったことも飯田市で考えていただければなあと思いました。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

小澤教育委員、お願いします。

◇教育委員（小澤由美子） 教育長さんの「部活動の転換」という新聞読ませていただいて、また、中体連が終わったばかりの保護者の方々とお話をしたんですけれども、やはり飯田市での取り組みということで、やはりある部活動に関してなんです、「近隣の村がとても強い」と、「練習量が飯田市と全然違う」という話があって、「ちょっと無理じゃないの」という話があった中で、やはり近隣とどういうふうに調整をとりながらいくのか。やっぱりそれはしていかないと無理だと思うんですが、どういうふうに。

教育長さん、前、何かの会議のときに「みんなでやっていかないと」というお話はしましたけれども、ほかの村はどういうふうに考えているのか等をお聞きして、歩調を合わせていたら保護者も納得するんじゃないかなあと思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

まず、三浦教育委員からありました「オープンデイ」の問題は、ぜひ事務局のほうでも、どう市民や機会をつくっていくのかというのは一緒に考えたいなというふうに思っていますのでよろしくをお願いします。

小澤教育委員の近隣の市町村との連携、これは、今年度、飯伊市町村教育委員会連絡協議会の調査委員会というのがあるんですけども、そこで部活動の現状を把握しながら足並みをそろえていこうということで、部会というか委員会が立ち上がっていますので、そこでしっかりやっていこうというふうに思っています。

◇教育委員（伊藤 昇） 飯田市以外の町村が強いということで、保護者の方が「もっと部活動を増やして、こっちへ移行するのは無理なんじゃないか」と言うんですけども、子どもさんというか生徒の思いというのはどうなんですか、実際。「親のほう盛り上がっていて」とか、あるいは「顧問の先生が盛り上がっていた」というのは、今回これに移行する段階で、その話というのは前段階としてあって、それはわかると。顧問の先生が熱を入れる、あるいは親御さんが熱入れるというのはわかるけれども、やはり主体はあくまでも生徒ということで、今までの部活動から考えれば当然そういう熱意というのはあるんだろう、十分承知の上だけれども、というそういうのを踏まえての移行ということだったので。

その熱がいつまで続くかわかりませんが、移行期としてはそういう問題が多少出てくることはあるかと思えますけれども、ある意味、今後の部活あるいは地域スポーツですかね、そういうあり方から考えると、このやり方で改めてよかったなあと私は思っています。という意見です。

◇教育長職務代理者（北澤正光） そういう意味で、まずは教育委員さん、飯田市だけじゃなくて周辺の飯田・下伊那全体の教育委員会の教育委員さんたちにも意識を少しずつ変えていっていただくのがいいのではないかとということで、教育長さんとも相談して、過日の総会の際には、信州大学の渡辺先生にお出でいただいて、スポーツのこれからのあり方というようなお話をいただいたりしましたけれど、確かに今のところは、教育長さんがリーダーシップを発揮されて周辺町村にも投げかけているんですが、私の感じているところでは、結局、飯田市がどれぐらい本気で動いていくのか、その様子伺いというか、それを見ながらだんだんそれに合わせていこうかというような、正直言ってそんな感じを受けています。

だから、若干時間は掛かるかもしれないけれど、「過渡期だ」と今伊藤教育委員さんの話があったことを受け止めながら、これは国も県も待ったなしで動いていく話なので、そのところを飯田市としては、ある程度、下伊那の先頭を切って貫いていくということなのかな

あと思っています。

○教育長（代田昭久） はい、私も先ほどの保護者の意見で感じるのは、要は勝利至上主義そのものですよね。その意識を変えない限り、いくらかかったっていけないなあと思っているんで、そういう議論をしたときに、我々としてはまさに、子どもたちそんなに望んでいるんですけど、というところは立ち返らなきゃいけないし、この前の渡辺先生がおっしゃっていますけど、スチューデント・ファーストなんだと。

これは子どもたちが主体的にやれるかどうかという問題で、まあ私自身は、子どもたちって、この中学校で最後勝ち負けにこだわるんじゃないなくて、将来的に長いスポーツ人生の中で、スポーツを楽しみたいとか、うれしいという経験が、そのことのほうが価値があるので、そういった考え方の価値観の転換はすぐにはいかないけれども、そういうことをじわじわ私たちも発言していかないと、その議論に乗っちゃうなあとというふうに思っていますので。

今、北澤教育長職務代理者の話を受ければ、飯田市からここは発信していかないと難しいかなあとというふうには思いますが。そんなことを感じるところです。

ほかにはいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

また引き続きご意見あればよろしくお願いいいたします。

日程第6 議案審議

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第6 議案審議。今月の議案審議は10件になります。よろしくお願いいいたします。

議案第28号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長（代田昭久） まず、議案第28号、「学校運営協議会委員の任命について」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第28号「学校運営協議会委員の任命について」でございます。

令和元年度、今年度の学校運営協議会の委員といたしまして、龍江小学校につきまして、追加して2名、学校長から推薦がございましたので、飯田市学校運営協議会規則第8条第1項の規定により任命いたしましたというご提案を申し上げます。任期は、令和2年3月31日ま

でございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま議案第28号の説明がありましたけれども、ご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） 承認ということによろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

議案第29号 飯田市就学相談委員会委員の任命について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第29号「飯田市就学相談委員会委員の任命について」
をお願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第29号「飯田市就学相談委員の任命について」お
願いをいたします。

飯田市就学相談委員会でございますけれども、飯田市就学相談委員会条例に基づく飯田市
教育委員会の附属機関ということでございまして、教育委員会からの諮問に応じて、教育上、
特別配慮を要する幼児・児童及び生徒の就学に関する調査・審査、その他就学相談に関する
事項などを行うものでございます。

具体的には、来年時、入学児童の就学判断、前年度、就学判断を行った児童生徒の実績調
査などを行っているものでございます。

任期につきましては、2年ということで定められておりまして、今回、2年の任期となり
ますので、改めて任命をいたしたいとするものでございます。

委員につきましては、記、以下に記載のとおりでございます。

人数につきましては、条例の第3条で20人以内というふうに定められておりまして、学
識経験者、医師、教育関係、行政機関の職員、福祉関係の行政機関の職員から教育委員会が
任命するということになっております。

議案に記載のとおり任命をしたいとするものでございますので、よろしくご審議のほうお
願いをいたします。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま議案第29号についての説明がありましたけれども、何か質問ご意見等ありますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) それでは承認ということでよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) はい、ありがとうございます。

議案第30号 飯田市青少年育成推進委員の委嘱について

○教育長(代田昭久) 続きまして、議案第30号「飯田市青少年育成推進委員の委嘱について」をお願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長(北澤俊規) それでは、議案第30号をお開きください。「飯田市青少年育成推進委員の委嘱について」ということで、こちらの飯田市青少年育成推進委員につきましては、「飯田市青少年育成センター設置要綱」に基づきまして、街頭巡回活動、青少年育成に有害な社会的な環境を改善するための活動の促進、青少年健全育成に係る関係機関団体、地域組織並びに企業等連絡調整、青少年健全育成に係る情報や資料の収集、その他青少年健全育成のための活動を実施するという事です。

以下、推薦される委員につきましては、10名の内の9名ということで委嘱をしたいとするものであります。

審議のほうよろしくをお願いします。なお、任期につきましては2年で、令和3年3月31日までということで提案をさせていただきます。

以上、よろしくをお願いします。

○教育長(代田昭久) はい、ありがとうございました。

ただいま議案第30号の説明について、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) それでは、承認ということでよろしくお願いたします。

議案第31号 飯田市わが家の結いタイム推進協議会委員の委嘱について

○教育長(代田昭久) 続きまして、議案第31号「飯田市わが家の結いタイム推進協議会委員の

委嘱について」願います。

北澤生涯学習・スポーツ課長、願います。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） それでは、続きまして、飯田市の「飯田市わが家の結いタイム推進協議会委員の委嘱について」ということで、こちらのほうにつきましては、「飯田市わが家の結いタイム推進協議会設置要綱」というところで定められております。

飯田市における家庭教育事業であるわが家の結いタイム普及啓発並びに学校・PTA・公民館等の関係機関及び関係団体との連携・協力による家庭教育を支援するための取り組みについて協議するというのでやっております。

委員については20名以内ということなのですが、9名の方を委嘱したいとするものです。任期につきましては、1年ということで令和2年3月31日までということになります。以上、委嘱について、よろしく願いたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま議案第31号に対する説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしく願います。

議案第32号 飯田市キャリア教育推進協議会委員の委嘱について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第32号「飯田市キャリア教育推進協議会委員の委嘱について」願います。

北澤生涯学習・スポーツ課長、願います。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 続きまして、議案第32号「飯田市キャリア教育推進協議会委員の委嘱について」ということでよろしく願いたいと思います。

こちらにつきましては、「飯田市キャリア教育推進協議会設置要綱」の第5条の規定により委嘱をするということでよろしく願いたいと思います。

飯田市キャリア教育推進協議会につきましては、キャリア教育の推進に関する基本的な方針を定める推進に関する評価及び検証を行うということで目的・役割を定めております。

委員につきましては30人以内ということです。

所属のほう、各種企業代表、あるいは学校公民館、その他関係機関の皆さんにお集まりい

ただきまして審議・議論いただくということでもあります。

任期につきましては、1年ということで、令和2年3月31日までということで。

以上、ご審議のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいま議案第32号の説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしくお願ひいたします。

議案第33号 飯田市美術博物館評議員（自然分野）の選任について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第33号「飯田市美術博物館評議員の選任について」お願ひします。

池戸美術博物館副館長、お願ひします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） 議案第33号を説明いたします。飯田市美術博物館評議員の選任でございます。

下記の表にある者を飯田市美術博物館評議委員、これは自然分野でございます。11名中4名を新任ということで選任をしたいと思ひます。

提案理由でございますが、美術博物館条例施行規則においては、博物館等の事業に関して専門的な指導及び助言を行うという立場で評議員を置くことができます。任期2年でございますけれども、令和元年、2年の評議員を選任したいというものであります。従いまして、任期は令和3年3月31日まででございます。

以上、よろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいま議案第33号の説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしくお願ひいたします。

議案第34号 飯田市美術博物館評議員（美術分野）の選任について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第34号の説明をお願いします。

池戸美術博物館副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） 議案第34号は33号とかぶりますが、同じく美術博物館の評議員の選任で、こちらは美術分野でございます。

委員12名のうち4名が新任ということになります。施行規則の中では、専門的な指導・助言を行う立場ということで評議員を置いておきまして、2年間の任期、任期は令和3年3月31日までということをお願いしたいということでもあります。

よろしくお願いします。

○教育長（代田昭久） ただいま議案第34号の説明がありましたけれども、何か質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしくお願ひいたします。

議案第35号 令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第35号お願ひいたします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第35号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては、別冊でご用意をいたしておりますとおりでございます。

それぞれ記載いたしました認定要件にて認定をいただけますようご提案を申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

○教育長（代田昭久） ただいま議案第35号の説明がありましたけれども、支給対象者認定ということで、ご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（賛意を表す者あり）

○教育長（代田昭久） それでは、認定承認ということでもよろしく願います。

議案第36号 県教委と市教委相互の任免及び人事等に関する了解事項を取り交わすことについて

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第36号、説明をお願いいたします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第36号「県教委と市教委相互の任免及び人事等に関する了解事項を取り交わすことについて」をお願いいたします。

例年、県教委と市教委におきまして、この時期に取り交わしているものでございまして、昨年度に引き続きまして、了解事項を取り交わしたいとするものでございます。

了解事項の趣旨につきましては、県教委と市教委が全県的視野に立って教育行政の適正かつ円滑な運営を図ることを目的に教職員の任免、その他の進退等に関するものでございまして、了解事項に基づき別紙の覚書を交わすものでございます。

別紙覚書でございますが、その中に「(4) 教員について」というところがございます。これも例年のとおりでございます。「これを校長に立案させることが望ましい」ということで、校長会の中でも人事を担当していくということが例年行われているということで、これも例年どおりの覚書ということになっているものでございます。

変更点につきましてご説明を申し上げます。覚書からめくっていただいて、新旧対照表をつけてございますのでご覧いただければと思います。

ご承知のとおり、新教育委員会制度が実施されておきまして、「教育長」という言葉はなくなっておりますので、「教育長」のみに変更するものでございます。この部分が変更点でございます。

以上でございます。よろしく願います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの説明について、何か意見、またはご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでもよろしく願います。

議案第37号 飯田市文化財の指定について

○教育長（代田昭久）　続きまして、議案第37号、説明のほうをお願いします。

馬場文化財担当課長、お願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之）　それでは、議案第37号をお願いいたします。

「飯田市文化財の指定について」でございます。飯田市文化財保護条例の規定によりまして、下記の物件を飯田市有形文化財として指定するという内容です。

指定する物件の名称につきましては、「菱田春草筆　富嶽」、指定する物件の内容及び所在地につきましては、内容は、絹本著色、軸装ほか記載のとおりです。所在地につきましては、飯田市追手町2丁目655番地の7で、所有者の名称及び住所につきましては、飯田市所有で大久保町の住所であります。

それでは、参考につけました答申書の2ページのほうをご覧くださいと思います。

まず、概要でありますけれども、「富嶽」につきましては、「春の穏やかな気配の中に、凜と立つ富士の姿が描かれている」と。「下方には松の生じる砂州を配しており、三保の松原と富士を描いた伝統画題である」ということで、その価値については、2以下のほうに記載されています。

絵画については、4ページの図をご覧くださいながらと思いますけれども、

「本図中央にある霞の描写は朦朧体に典型的な表現である。ただし、本図には初期の朦朧体に特有であった色彩の混濁が見られないということで、色彩純化を志向した明治30年代後半の傾向である。また、明治37年から38年にかけて、米欧に遊学した春草は、印象派などの画風から大きな影響を受けているということで、帰国後には、色彩研究を重要課題として掲げ、色彩の調和や対比の研究を重ねて、点描表現や鮮やかな色彩の使用を試みていく」というところで、「この図の海面や松の表現にはこのような成果が現れている」ということです。

「朦朧体の画風によりながらも、上空の朱の賦彩などでは平明な傾向を強めて」いくということが確認できまして、朦朧体の再末期、春草が「落葉」や「黒き猫」など、「装飾性重視の画風へと向かい始める移行期の傾向をよく伝える作品である。」という点が1つの価値です。

また、(2)にありますように、「春草兄弟の絆を伝える重要な資料の1つである」ということで、弟・唯蔵の義父である百瀬武策が箱書をしておりますけれども、春草が結婚祝いとして弟に送ったことがわかるということで、春草兄弟の絆を伝える重要な資料としても位置づけることができるということが評価されます。

ということで、答申書のIにありますように、「菱田春草筆「富嶽」については、飯田市

有形文化財として指定することが適当である」という答申を5月29日に開催しました、第1回飯田市文化財審議委員会で答申をいただいております。

戻りまして、4番ですが、指定の根拠及び指定の種別につきましては、「飯田市文化財保護条例施行規則別表中、「飯田市有形文化財 1 絵画」のうち、「この地方の絵画彫刻史上特に意義のある資料となるもの」に該当する」ということで、以上、飯田市有形文化財として指定いたしたく提案をいたしたいとするものでございます。

よろしくご審議のほどをお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ただいま提案についての説明がありましたけれども、ご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第37号に関しては、承認いただきましたのでよろしくお願いいたします。

以上で、本日の議案審議を終了させていただきます。

日程第7 協議事項

日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第7、日程第8、協議事項、陳情審議。今月の協議事項、陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9 その他（1）番、「教育委員報告事項」、教育委員の皆さんのほうから報告事項あればよろしくお願いいたします。

小澤教育委員、お願いします。

◇教育委員（小澤由美子） 昨日の夜、新聞を見ていたんですけども、昨日の中日新聞に「不登校の読み方を変えよう」というのが載っていたんですが、社会派アイドルグループの「制服向上委員会」という方々が「不登校」に変わる用語を今集めていて、その中で慎重に考えて、10月に、その「不登校」に変わる言葉を発表するという記事が載っていて、これを読んだときに、個人的に職務代理さんとお話を以前したときに、「不登校」という言葉、やっぱり嫌いだよね」という話で、「僕はこういう言葉がいいと思うんだよ」と前にパッと行ってく

れたんですけど、いま、それ忘れちゃって。

でも、別にそこが言わなくても飯田市から言葉を変えていっちゃってもいいんじゃないかなって。「不登校」という言葉もう使わずに、不登校という言葉は、本当に行きたくても行けない子供たちに対して何か悪いことをしたかのようなレッテルを貼ってしまうという考えもあるみたいで。何とか言葉を変えませんかと思って言おうと思ったんですが。

○教育長（代田昭久） なるほど。

◇教育委員（伊藤 昇） いいですか。そのことに関してですか。

○教育長（代田昭久） せっかくですので、そのことに関して、北澤職務代理者のほうで思い出していただければと思いますが、私がちょっとフォローするまで。

確かにそうなんですよね。「不登校」とか言い方をすると、やっぱり学校が正義だ、学校が正しくて、そこから抜け落ちた者が正しくないみたいなニュアンスを与えているということは確かにあるので、そういった意味では名前からくるイメージも含めて、飯田市からつくるとするのは、そんな外のマスコミの力を借りなくても、まさにつくっていくというのはあるかなあと思いますが。

思い出したでしょうか。横文字だったんですか。

◇教育委員（小澤由美子） ううん、何かすごい、何か「あ、本当そうだら」って思ったんですけど、忘れちゃって。

◇教育長職務代理者（北澤正光） そのうちに出てくるかもしれません、済みません。

○教育長（代田昭久） 済みません、言葉が出ないけれども、そういった考え方についてご意見あれば。

◇教育長職務代理者（北澤正光） それは前から思っていたことで、5つのアクションの頭のところに、「飯田市不登校5つのアクション」って、要は、平成20年から21年ころに制定されたときに、「不登校5つのアクション」って名前がついているんですよね。

それをずっとやってきて、毎年それを印刷して、4月の教育支援主事の皆さん等で共有するとき、どうしても「不登校5つのアクション」なのかなあということをいつも思っていました。「不登校」と頭についている5つのアクションにとっても違和感があって、「この言葉は外せないかなあ」というか、「違う言葉に変えられないかなあ」ということをずっと思っていた経過があります。

なので、今、その「いい言葉だった」と言われる言葉がすぐに出せないのも全く申し訳ないんですけど、思いとすると全く同じ思いです。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

いい問題提起、またぜひ検討していきたいと思いますし、また思い出していただけるとうれしいなというふうに思います。

それでは、伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 今の話にも少し関連するんですが、6月7日に帯同で竜峡中学に行ってきました、個人面談がほとんどでした。

それで、その中で今不登校の話なんですけど、竜峡中学ですから、龍江、川路、三穂ということで、龍江は小学校は不登校出ないというところで、竜峡中学もそんな流れできたんですが、今3人出たという話が出まして。

そこに、教務主任が熱心な方と、もうひと方、養護の先生が非常に、私ども養護という身体の、心のことが、心じゃなくて体の身体の安全のことを考えますけど、今はもうそういった不登校の悩み相談とかそういったことも入っているんですが、その養護の先生と2人でタッグを組んで、その3人の家庭まで入って、家庭まで入ってというのは、学校に来れないということに関してのことですけれども、かなり親御さんとい関係ができていて。まだ結果は出ていませんけれども、特に母親とい関係ができて、いい方向に向かっているというお話を聞いてきました。

あと、全然全く話違うんですけど、先ほど美術博物館の話、副館長が明快なお答えをしていただいたので、非常に納得してありがたかったんですが。

今、教育長の富山での報告事項の中に、分科会の中で図書館と科学館が複合施設によって相乗効果を生んでいるというお話をお聞きしまして、美術と博物館がいい相乗効果が起きるんじゃないかということをもた改めてそう思いました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかに委員の皆さん、いかがでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 5月31日に関東甲信越静岡市町村教育委員会の連合会に行かせていただいています、山梨県北杜市です。

長野県、県立大学の学長先生のお話をお聞きしました。また、国のほうから、文科省のほうからは、教育の情報化の動向についてということでの話をいただいています。印象に残ったといえますか、わかりやすく文科省のほうからも教育の情報化の動向ということでお話いただいています。

その中で思ったのは、プログラミング教育というものがされるようになってきます。教科

にされるのではなく、算数であるとか、理科であるとか、そういったところの考え方というところをプログラミングで押さえていくということですが、前回も私、LG飯田教育ということで少し意見言わせていただきましたが、その中にある飯田宇宙教育、宇宙飯田教育という言い方だったのでしょうか。そういったものに、そういったプログラミング的思考を兼ね備えた何か、ことがもしできたなら、飯田市としてプログラミング教育が宇宙飯田教育、そういったところに生きてくると、そういったこともまた考えていけたらすてきなのかなあ、なんていうことを思いながら文科省の方のお話を聞きました。

また、長野県立大学の金田一学長先生のほうのお話からも、「論理的思考力というものが大切で」というお話がありました。プログラミング教育、物事を考えたものを形にするという論理的な思考というもの、やはりそういったものはプログラミング、情報というところだけではなくて、本来求められている今の子どもたちの教育の力なんだなということを感じましたので、またそんな飯田らしいプログラミング教育を地域でもできたらいいな、なんてことも思いました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

北澤教育長職務代理者。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 私から2つあるんですけど、冒頭のところの全国学力学習状況調査のこと等にも、飯田市の子どもたちの学力を上げるということについてもつながるような話なんですけれど。

ちょうど6月3日の日ですが、市内のある中学校で、全校の「教科研究はじめの会」というのがあって参加させていただきました。その週は中体連があるんです。その週末には中体連大会がある週の月曜日なんですけど、そういう日であっても授業をうんと大事にするんだということで、部活動はやめて、全職員が研修をするという日に当たっていました。

その学校では、全職員意識をそろえて授業づくりをしていくということです。まず、教師がその授業で使う教材を突き詰めて研究をして、その教材の最も中心になるところ、それを学習問題として子どもたちに提示するということを目標に授業づくりをしています。その中でも今年は、1つの教材を学び始めから終わりまでの数時間を1つの単元として、その単元全体を貫く魅力ある学習展開を作り上げようということをテーマに取り組んでいました。

授業の一番の土台には、学習問題について、子どもさんたち一人ひとりが、まず自分の考えを持つ時間を必ず取る。そのために本当に素朴ですけど書くということ、自分の考えを書くということが一番の土台にして授業を進めましょうというようなところから、まずは自分

の考えを書いたものを土台にして、今度は友達とが関わり合うというような、本当に基本的なことを貫いて、最後はまとめをして、振り返りをして、単元全体を通して自分や友達が育ったこと、または、まだ足りないことなどを見返しながらやっていくというようなことを全職員で改めて確認し合いながら進めるような授業研究会をやっていました。

偶然、当日は、今年赴任したばかりで、しかも小学校6年生を卒業させて、初めて中学に赴任したという若い先生が、今度は中学校1年生の国語で授業公開をしてくれて、「中学へ来て初めて公開する授業が今日です」ということでした。

そうしたら、それに先だって若い先生方が「その3日ほど前にも来てくれ」と言うので行ったんですけど、中学3年生の理科と、2年生の体育を、やっぱり若い30代の先生が公開をしてくれました。

ですから、6月3日の当日は、1年生の国語、2年生の体育、3年生の理科、つまり中1から中3までのお子さんたちの学びの姿を土台にして、全校の先生方が「今年の授業づくり」について学び合うような機会になっていました。冒頭のことともつなげて、働き方改革で子どもといかに向き合う時間を大切にしていくかという中で、さっき留守番電話のこともありましたが、いろいろなことがそういう枠組みで動いているというふうに思います。

また、新学習指導要領もいよいよ来年から、小学校から完全実施になっていく。こういう時期だからこそ、いつもと同じ繰り返しになってしまっていますが、自分の学校の子どもたちに職員が心をそろえて、どういう授業づくりをしていくか、そのために部活動等の見直しをして、あるところは負担を減らし、逆にうんと注力するところは注力するということをしていくときだなあと改めて思いました。また校長会等でもぜひこういうことを伝えていきたいと思いました。

あと、もう1点、これは簡単に済ませますけど、5月の24日の日ですけど、OIDE長姫高校の機械工学科の3年生の生徒4人が、ミニ電車を作って地域のイベント等で子どもさんたちを乗せたりする企画を進めたいと。

去年までは借り物のミニ電車でやっていた。去年まで、機械工学科の3年生たちで代々つなげてきて、楕円形の40メートルのレールが既に先輩たちが作られてあったと。そこへ去年までは借り物の電車を走らせて子どもたち乗せていたが、今年はいよいよその3年生4人が、地域の専門家の工場とタイアップして、電車を作って、その40メートル残されたレールを活用して、「8月ぐらいまでには電車を完成させる」と言っていました。

地域のイベント等で希望があれば、そこへ行って、要するに「社会貢献したいんだ」といって、非常に前向きに取り組んでいる高校生のお話を直接聞きました。

商業科の皆さんの地域人教育で、地域へ出てという今までの取り組みはいろいろ聞いてきたんですけど、今度は機械工学科とかの生徒さんたちも「社会貢献」という言葉にかかわって、地域に出て「自分たちの作った電車で子どもたち乗せたりして喜んでもらいたいんだ」というようなことを初めて聞いたので、高校生も本当に頑張っている子たちがいるなあと思いました。

小中連携でふるさと学習や総合的な学習の時間等で培ってきたものを、高校生になってもそんなふうにつなげてくれている子たちがいることはとってもうれしいなあと思って聞いてきました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 今のお話を聞いていて、本当、子どもたちが学んだことを形にできて、生かす場所があるというのって本当に理想的だなあというふうに思います。

○ I D E長姫高等学校、今の電車のお話も、私が聞いたところでは、本当に今までは直線のレールだったものにカーブをつけられるようになって回る、今まで行ったきりで、また戻らなきゃいけなかったものがグルッと回れるようになったりという、自分が学んだ知識を形に生かせると。

さっき、私プログラミング教育ということをおっしゃっていただいたんですけど、あれも通常、算数だとか理科だとかというそういうものをただ学んで覚えるだけではなくて、それを形にして何かに生かすという体験というところでは、本当にそれで学ぶことが楽しいというふうにやはり思えるその環境というものは本当に大切だなあというふうに私も思いました。

今、お話聞いていて感じたところです。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

貴重なご意見ありがとうございました。事務局のほうでもぜひ参考にしていきたいと思えます。ありがとうございました。

（２）教育次長及報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、教育次長報告事項をお願いします。

◎教育次長（今村和男） 特にありません。

（３）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） （３）番、「学校教育課報告事項」、お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、小中学校における空調設備の状況、小中学校のエアコン設置工事の状況についてご報告を申し上げます。資料は後ろのほうの資料No. 1、横向きになりますが、飯田市小中学校空調設備設置工事予定スケジュールをご覧いただければと思います。

まず、伊賀良小学校、上郷小学校、松尾小学校、丸山小学校の4校につきましては、普通教室の設置工事は完了しております、竣工検査も終わっておりますので、暑ければもう使えるというような状況になっております。

職員室等の管理諸室につきましては、6月いっぱいくらいまで工事が掛かる見込みでございまして、使えるようになるのが7月当初から使用可能という状況でございます。

その下の5校につきましても、工事中でございまして、普通教室の使用の見込みは7月当初から、管理諸室につきましては8月当初から使用可能という予定で工事が進んでおります。

その下の1-3期・4期の10校でございますけれども、夏休み後からは普通教室、管理諸室とも使用可能という状況になります。特に上の5つについては順調に進めば夏休み前からということも可能性があるという状況でございます。

一番下の中学校9校でございますが、工事の着工は7月ころからということになりまして、1月末くらいまでに整備を完了したいという予定で、こちらのほうも準備を進めているという状況でございます。

おめくりいただきまして、学校における空調設備の使用方法につきまして、まとめたものを配布させていただいております。

1つ目、使用方法ですが、設置した空調設備につきましては原則夏期のみ、冬につきましては、今までどおりストーブ等の暖房設備を使用させていただくというふうに考えております。

使用の温度は、この市役所の庁舎の基準と同様に、基準教室が28度以上ということで、その場合に使用をしてくださいということでございます。

それから、空調設備の起動の際に、一度にスイッチを入れますと電気料の算定に影響があるということがわかってまいりましたので、1分程度くらい感覚を空けながら順番につけていただくというようなご指導をさせていただくというふうに考えております。

④は、時間につきましては、始業から3時半を基本としていただくこと、それから、⑤は、学校の開放時、責任者のもとに使用するよう徹底していただくことをお願いしていくということでございます。

簡易点検につきましては、日常の点検・整備ということで、整備記録の保存をお願いした

いというものでございます。

以下は参考までに基準等が記載してございますので、またご確認をいただければと思います。

以上でございます。よろしくお願いたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、生涯学習・スポーツ課関係報告事項お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 特にありません。

○教育長（代田昭久） はい。

馬場文化財担当課長、お願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之） お手元に遺跡関係の資料、2つお配りしております。3枚つづりのほうですけれども、昨年度から今年度の調査中の遺跡についての概要をまとめたものです。

5ページのところに101次調査の概要というのがありますけれども、これにつきまして、「恒川NEWS」もう1枚の1枚物ですけれども、にありますように6月15日、今週の土曜日午前中10時から12時の予定で見学会を開催いたしますので、ご都合のつく方は足を運んでいただければというふうに思っております。

なお、6ページ目に戻りまして、確認調査については、これから本格的に調査進んでいくということで、次回の定例協議会の際にはこちらのほうを見ていただきたいというふうに考えております。以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

（５）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「公民館関係報告事項」、お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 本日はありません。

（６）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「文化会館関係報告事項」お願いします。

棚田文化会館長、お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦） それでは、「人形劇とまちづくりの推進について」ご説明申し上げます。

1番の人形劇の公演事業等でございますが、要点だけちょっとご説明申し上げます。

(2)番の実施済みの事業でございますが3つほどあります。1つ目は、5月25日に川本美術館のところで行いました今田人形の蠟燭公演を行いまして、150名の方が観劇されました。

2つ目でございますが、フェスタ出演の小中学生を育てています、ワークショップ付きの人形公演でございますが、入場者53名の方がこちらのほうを鑑賞しております。

3つ目でございますが、今田人形座といいだ人形劇センターが創作の人形劇ということで、現代音楽と伝統人形をコラボレーションしました「ゆきをんな」ですが、353名の観劇がございました。

(4)番、今後の予定の丸が2つありますが下のほう、プレフェスタということで、7月の18日から20日でフェスタの前哨のステージが始まります。

次に、2番の人形劇創造支援事業でございますが、(3)の開催中の事業について、ご説明いたします。

丸の3つ目からご覧いただきたいと思いますが、人形劇の基礎レッスンということで、現在継続してそれぞれ基礎レッスン、これ初級コース、中級コースということでやらせていただいております。

(4)番、今後の予定のほうをご覧いただきたいと思います。「伊那谷タイムトラベラーズ」ということで、2021年に発表する予定で、目標に人形劇の創作ということで進めているものでございまして、伊那谷の古墳史を人形劇の題材にして現在制作に向けて、ツアーを6月22日に開催してスタートしていくという予定のものです。

次のページをご覧いただきたいと思います。いいだ人形劇フェスタの関係でございますが、(2)番、今後の予定でございますけれども、丸3つ目でございますが、フェスタの期間は7月の31日から8月の5日ということで、その上の丸になります。有料チケットの販売、あと、参加証のワッペンの販売が6月23日からスタートという予定になっております。

あと、それぞれでまたご覧いただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

(7) 図書館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「図書館関係報告事項」、お願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子）　　お願いします。おめくりいただいて、資料No. 3をご覧ください。

図書館からは「よむとす事業 読書活動推進事業」の報告及び予定ということでお願いいたします。

まず、報告のほうですが、(2)のところに学校保育所との連携というふうに、5月の連携を書かせていただいております。図書館では、学校や保育園、幼稚園等と連携をしながら子どもの読書活動、それから、青少年の読書活動を推進しているんですけども、5月から中央図書館では追手町小学校のすべての学年で図書館に来ていただいて、読み聞かせを体験してもらったり、図書館内を見学して本を借りていただいたりということもしております。

中央・鼎・上郷のあの毎日開いている図書館だけではなくて、地域にあります各地区に分館がありますが、こちら毎日開館しておりませんが、こちらの分館のほうでも各地区の子どもたちに向けた読書推進を行っております。

5月に行ったところだと、上村分館で上村小学校の子どもさんたちに利用体験をしていただいたり、また、保育園の皆さんの読書推進ということでは、竜丘分館、三穂分館などで、保育園年少・年中・年長、各クラスごとに来ていただいて、実際に図書館分館の中で読み聞かせを体験してもらって、本を自分で借りていただくという体験、こちら定期的に行っておりますけれども、こういうことを行いまして、図書館で本を借りるということが当たり前になったり、その借りていった本をお家の方と読んでいただくということを楽しんでいただいたりということを進めております。

また、近年は高校の皆さんとも連携して、子どもに関わることを行っておりまして、下伊那農業高校で絵本講座の講師として絵本の読み聞かせの会を行ったりですとか、飯田女子高校で童歌の講座、図書館に来ていただいて童歌講座を行ったりという連携を行っております。

それから、下のほうの予定ですけども、今日何枚か案内のチラシを配らせていただきましたので、またご覧いただければというふうに思います。

(4)番のほうに、地域連携講座というふうに書いてあります。こちらは長野県図書館協会と飯田市の中央図書館とで共催の事業になっておりますが、長野県図書館協会のほうで、信州地域資料アーカイブと言いまして、インターネットで手に入る図書館とか文書館の特徴ある資料を公開して見ていただくような事業を行っていますが、その事業の紹介と、この会は地域の歴史について、資料を使った歴史の学習について学ぶという会になっております。チラシのほうもまたご覧いただければというふうに思います。

以上です。

○教育長（代田昭久）　　はい、ありがとうございました。

(8) 美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」、お願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） 特にありません。

(9) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「歴史研究所関係報告事項」お願いします。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） それでは、資料のNo. 4になりますが、4月5月の歴史研究所のゼミ等の報告を掲載させていただいております。

中ほどにも「地域史ゼミ」、それから「近世史ゼミ」、「ゼミ」という字が抜けてしまいましたが、この2つについては、今年度から新たに設置したものであります。

それから、別冊で「歴研NEWS第100号」お手元にお配りしてございますので、特集記事もございます。それから、9月の地域史研究集会のご案内ですとか、6月の地域史講座、飯田アカデミアのご案内がありますので、またお目通しをいただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、学校教育課から歴史研究所まで報告事項がありましたが、その報告事項に関して、質疑また意見等あればお願いします。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いします。

ご説明いただいた学校における空調設備の使用についての確認をさせていただきます。

②番のところに、「室温28度以上」というふうな形で、学校環境衛生基準に基づいてということでお決めいただいているかと思うんですけども、空調を設備するにあたっては熱中症という問題が大きいということに設置していただいたかと思えます。

どの学校にも暑さ指数計、WBGTの指数計があるかと思えますが、やはり熱中症は湿度がかなり関係してくるものであるかと思えますので、もし学校に暑さ指数計があるようであれば、その基準をもってエアコンをどうするかということを決めていただいたほうが熱中症の予防にはいいのではないかなというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○教育長（代田昭久） 桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 庁舎の基準は気温ということで、28度に設定しているということ

を準用させていただいてこのように考えたということでございますけれども、学校には熱中症の指数計は配布されておりますので、その基準を教室に置いてということも可能かと思えます。ちょっと検討してみたいと思います。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

もう一点、暑さ指数計で、同じような形で、この温度以上になれば熱中症危険ですよというようなそんな基準を、あれは厚労省でしたっけ、どこかからきちんと出ていたかと思えますので、またご検討ください。

お願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

(10) 今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、10番、今後の日程について、お願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課課長補佐（滝沢拓洋） 今後の日程につきまして、3ページ目をご覧いただきたいと思えます。

先ほども協議いただきましたが、7月の定例会を17日に、19日については、三遠南信教育サミット、正午受付でございますので、またご相談をさせていただきますが、集合時間、あるいは同乗して行けるかどうか、また通知によってお知らせを出したいと思えますのでよろしくお願ひしたいと思えます。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

今後の日程について、何かご質問ありますでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 先ほど、総合教育会議が18日に決まったということですが、定例会がその前の日にありますので、どんな内容で話し合いをするかはこれからだと思いますけれども、何か2～3週間前くらいにある程度わかるという、そういう働きかけが必要かなと思えますけれども。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

今、我々のほうで少し検討していることもあるんですが、決まり次第お伝えしたいというふうに思いますのでよろしくお願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） はい。

○教育長（代田昭久） ほかにはいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、今月の定例会議通じて何かご意見ご質問等あれば挙手お願いいたします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 事務連絡という感じなんですけれども、教科書の採択が始まっておりまして、検定が通った教科書の候補といたしますか、たくさんの教科書が今教育委員室の前に置いてございますので、もしよろしければご覧になっていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ぜひ、よろしければではあったんですが、1つはちょっと見ていただいてですね、先ほど日程のほうでありましたけれども、7月の29日でしたか、月曜日には調査会から出た物に対して、ここで議論するという会になりますので、全く読んでないただの素通りになってしまいますので、飯田市教育委員会としての見解というのがありますので、何か1つでも、ご覧になっていただくといいかなあというふうに思いますので、終わった後、見ていただければと思いますのでよろしくお願いします。

ほかにありますでしょうか。

（発言する者なし）

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） 本日もありがとうございました。

日程第10、以上をもちまして、6月の定例会を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。

閉 会 午後4時20分